

最初の方は青森の国際
芸術センター青森 acac の時に「雲谷（もや）」って
タイトルを外の作品つけたんですね
これとは全く全然違うんですけど
その頃っていうのはやっぱりその水蒸気が
水蒸気っていうか水が空から降ってきてで
また上がってっていう間の循環のところで
自分たちが生きていて その時はまだあの
3.11 まででしたけど
ケミカルなものもすごい降ってきてって
というようなことを思っていて
作品を作ったら
ちょっと山にあるんですよね で そこから
そこではもうすごい霧（もや）でもう1メートル先
も見えないぐらいの夕方降りてきて
降りたらもう何ともなくて
で、そこが「雲谷」と呼ばれているところで
モヤヒルズっていうのもあって
雲谷ってこういう字なんだみたいな
もちろん違う
字も書きますけど
雲谷ってこういう字でも書けるんだなと思って
ぴったりだなと思って「雲谷」っていう
タイトルをつけたんです
最初の頃は本当に閉ざされた
池みたいな 水の中の池みたいなものを
光を内包した鉄で作りたいなと思っていて
ずっと作っていて
だから降り注ぐものたちとか
降り注ぐものというのは
なんか結構それも
展覧会タイトルとしても使ってるし
何かが降り注いでいる 私たちのこの場所みたいな

感じで だから
水とか光とか 自分自分たちが
私が生きてるこの世界をこういうもの
なんじゃないかって思って作ったものを
こう置いてどうでしょうっていう感じですかね

だいたい私の作品 私が仕事をするのは
溶断って言って
火を使って
鉄を切る シューってガスで
切ることがもう99%で
その切っている時に
鉄をこう
火で温めるとだんだんだんだんこう
オレンジ色から
最後 こうなんて言うんだろう 夕日とか朝日
ぐらいのオレンジ色になって もっと
ずーっと火をこうつけてると
昼間の太陽みたいな 白い光に
なってくるわけです
で、それを見ながら作っていて
私が
何十年やってんだろう
溶断をずっとやってるのって やっぱり
溶断ていうか鉄を切る作業が好きだからなんだ
と思うんですよね
そうじゃなかったら
なかなかずっと1日10時間とか8時間とか
そのぐらいずっとやってるわけで
その作業をやりながらなんかうわー鉄って
綺麗だなあと思ってる
だから今まで切れてたのかなと思うんだけど
鉄を火を離して見ていると
緑色のお面をやってるんですけどバツと上げて
鉄がオレンジ色からだんだん冷めていく
のを見てるとその

鰻屋さんでこう炭とかもなんか周りが
オレンジ色なんだけどだんだんだんだん
冷えていくと中がオレンジ色になって
ふーってこう光が中に入ってくみたいな感じ
だから鉄も 12mm とか 24mm とか
の厚さになると
そういうふうの中に光がずっと見てると
残って なんか半透明に見えるんですよね
私にとってはだから鉄っていうものが
半透明な金属だなんていう風に思って
それでそういう風な半透明な鉄を使って
半透明な空間を作りたいなと思ってたんですよ
それが寒天とかそういう風なタイトルに
なったんだと思うんですけども
半透明っていうのがすごいその頃好きでしたね
でもそれ私は言葉としてわからなくて
ずっと透明なんで好き 鉄は
とか言っていて、で使ってから 10 年ぐらい経ってから
私が言ってるのは
半透明ってことだなんていうのがやっとわかって
この頃は半透明と言ってます

武蔵野美術大学彫刻科で

1、2 年は塑像なんですよ その頃は
今はそんなやらないですけど
粘土でこう作ってて 3 年になった時に
A カリキュラム B カリキュラムって
B カリがその実材と その頃は言ってましたけど
そこからやっと何かいろんなことやって
良くて そこで
鉄を 鉄でなんか 30cm 立方みたいのを作れ
みたいなことをやらされた時に
なんかその頃からやっぱなんか
細い線材みたいのを使いたくて
そうすると

鉄って例えばそれが紙だったり 何だろう

石でそういう風な線を作るの難しいし
木で作るのも結構大変なんですけど それを
例えば 2m の高さで上をびってつけたら
もう立つみたいなのって金属しかなくって
かつステンレスとかアルミっていうのは
熱をかけても色が変わらないんですよ
銀色のままなの で突然くしゃっとなったりする
でも鉄はそこにこうなんだろう
キャンプファイヤーが好きなみたいな感じで
見てるとやっぱりすごく面白い で安かった
で、鉄いいなと思って
最初に割り箸状みたいなものを
線で 3 本 2 本じゃダメなんです
それを 3 本使ってこう立てた時に
中に空間ができて あーなんかこれなら
私できるかなみたいな それまで
私が彫刻家になりたいと思ったのってその
瞬間かもしれないっていうか その時に
初めてこう立体になったみたいな
あとなんかその頃は
塊みたいなもの全然興味がなくて なんか風
がふーって通るようなものいいなって
思ってたんですよ
まずその線のを板を買ってきて
板を買ってくる前に
丸鋼とか角棒っていうのが売ってるんですよ
フラットバーとか
鉄材屋さんに そういうものを買ってきて
つけてたんだけど なんかこう違うなと思って
で、やっぱドロ잉するみたいに自分で
切らないと私の線にならないなと思って
三六板とか四八板とかいう
鉄材を買ってきて切り出したと 切って
使ってたんだけどなんかそれも

何て言うのかな あの

顕微鏡で見たらきっとこの線って点のこう
集まりなんだろうなと思って で丸を切って
それをこう
溶接して線にするっていうことから
だんだん円になってたんだと思います
私の体の中の分子みたいなものであったり
その辺にこの辺にある何かものだったりとか
すべての始まりの点みたいなものですかね
例えば線を作るにしても
ちっちゃい丸を作って
それを棒にしていくとなると
ものすごくいっぱい
いるんですよね だから私が買う鉄材は
だいたいこれは薄いですけどもこれ
6か9だと思うんですよ ミリがね
だいたい 12mm を使っていて
その五十板っていう ベニヤ板で
三六板ってあるでしょ 三六の上が四八で
四八の上が五十なんですよ
五十って言うと 3m×1.5m
でそれが 12mm だと 1枚で 468kg かな
そのぐらいのものでそれを
鉄材屋さんにこうお願いしますって言って
私のアトリエは天井クレーンも何もないので
4トン 10トンで行きたい
けど 4トンしか入らないんですよ道が
4トンユニックを手配して 4トンユニックで取りに
行ってもらって
4トンユニックで1枚ずつ 下ろして
なんとか手でそのエジプトの
ピラミッドじゃないけど
コロとかバールとかで なんとか入れて
それを切らないともう出ないという感じ
例えばこの作品を作るとかこの展覧会っていうと

それ用に買って鉄を切る
でストックっていうか 山になったその
丸とか 円とかを
私がこうバーッと仮付けして形を作っ
てってこれとかだと例えばこういう細い丸
をいっぱい作っというて どういう形になる
か分からず作ってる 作り出すというか
こんな感じかなーみたいな感じでまあ
下の辺からこう作ってってでこの辺の高さに
なったらもうこれでいいかなみたいな感じ
で終わるって感じ だからこの丸がまあ
余ったやつは少しあるけれども結構全部
使っちゃう感じですよ
これは
何だろうこのまま美術館に持ってっておけ
ばいいだけだけど
他の作品はそのパーツ
で持ってって
少なくとも 10 トン乗るぐらいの大きさに
は切っとかないとな
切っとかないというか だから
トラックに乗って
かつ美術館の搬入口に入る大きさを
調べておいて例えば 2m×何 m みたいな
感じでやってそれで入れてから美術館の中
で溶接して溶接っていうのはあのつけて
いくことなんですけどで つけてそれで
バーッとやってから 1 ヶ月した後全部
グラインダーで切って持って帰ると
だからなんかすごい面倒くさいことやって
るっていうかなんか自分で本当私すごく
こう
面倒くさいこと嫌いなんですけど
なんだかそういうことをやる羽目になっ
ていてこういう風にこうポンって置いて
いいなって思います

昔はあのすごい忙しい時に
鉄板に一応チョークみたいな
石筆で書いて
切るんですけども
その私が描いたところを
切ってもらったことがあるのね あの助手の人に
そっちで切ってたただの棒だからと思って
でもねなんか違うんですよ なんか
許せないとか思っちゃってなんか違う線が
とか思ってもう一回切り直したりして
それは昔の
千里万博公園にあった
国立国際の時の個展なんですけど やっぱ
違ったなあとってそれから本当に
もうちょっとした溶断でも絶対私がやると
いうか切るっていうかやっぱそれ切ると
やっぱりなんて言うの自分で自分の責任だし
あと自分なりの線が出るって感じで
あんま変わらないですよ ドローイングと
彫刻っていうものは
ただまあこっちは3次元なんですけど
あんまり変わらないかな
プランニングにしてもこういうものもそうだし
部屋の部屋をこういう風にするって
いう時もドローイング描いても
プランニング書いても結局はその部屋に
行かないと分からないじゃないですか
ものすごい天才的に分かればこっちから
こう奥行きがあってこうとか
わかるけどそういうのは
私わからないので もう行ってから
プランニングやめてこっちにするみたいな
こともよくありますね
なんか普通にあって欲しいんですよ
なんか
舞台美術みたいなものではなくて 私たちが

こう生きてるこの普通の世界に普通にある
ようなもの
例えば椅子とか
ダンスとかと同じぐらいな感じであって
ほしいなっていうのはあります
このディープエッジングっていうのは
銅板 普通にこう
銅板画用の銅を
傷がつかないようにビニールが貼ってある
ブルーの
で、それを剥がしてこう
荒らしてみましようっていうか
腐食させてみましようみたいな
あれでそういうことをやった人がきっと
どっかにいるんだと思うんですけど
あんまりやったことがないやつで、だから
これをアトリエに持って帰ってきてそれを
こうカッターみたいなもので切って
ピリピリピリピリってやってだからすごい
こうあとはビニールがこう保護してるので
すごい長い時間腐食できるんですよそう
するとあの黒がものすごい厚い感じで
ちょっと触るとボコってなるぐらいなっていて
いつもなんか何だろう
彫刻から離れて描きたいんですけど
ドロイングをね 例えば
版画もそうなんだけど
結局はなんか
彫刻のプランじゃないけど なんかそういう風にな
ってるなあと思って
これの左側のやつとかは珍しい方で
なんかそのモヤモヤとした
感じを描きたくて描いているけど でもそれが

成功したのかなどうなのかなっていうのは
あるんですけどね

なんかなんて言うんでしょう
彫刻家のドローイングっていうか
絵画として描きたいなっていうのは
すごいあって
版画の時も結構頑張ってる
こうやってみるんだけど
意外となんかなくて
やっぱり彫刻的
絵になってるなって感じはします
その呼吸してるっていうか鉄がそこが大事
なんだと思うんですよね あの
山の中にこれを置いてここに何かこう塗料
が入っているとあんま完璧に
人工物だなんて思う
というか分かっちゃうんだけど
それがないとこの辺は全然私が切ってるから人造物なんだけど
そういう感じがあんまりしないっていうか
大分の美術館に1回すごく大きいもの置い
たことがあって外に で次の日に
見てから帰ろうってちょっと遠くから見たら
全然発見できなくて
もう取られちゃったのかなって
みんなで思うぐらい
木にこうなんていうの溶け込んでしまって
見えないっていう
それが鉄の良さかな 思います
これは美術館に入ったからいいけどなんか
野外にあるものってすごくこう
主張あんまりしてほしくないなって
私は思うので
ピカピカとかキラキラとかそういう風な
彫刻じゃなくて なんか普通にあってほしい
なって思うので
そういう意味でも
あんまりこう塗料塗りたくない あんまりというか
絶対に塗料塗りたくないなっていうのは

あります
もうその切ってる時は良い丸を
切ろうとか全然思ってないですなんか
ただただ何も考えずに切ってるってそこが
大事っていうかだからあの作品を最後に
だからいつかバチかで美術館にパーツだけ
持ってってパッと作って
失敗ないんですかってよく聞かれるんです
けど ないんですそれは
失敗も成功もよく私にとっては同じだから
だからすごい着地点が大きくて ここに
入んなきゃなんないんだったらこれ以外は失敗
だけど
私の場合はその時までにもものすごく
必死で溶断していれば
まあこの辺 例えばだから
2023年の4月3日の私は必死でこれを
作ったからこうなりました でも1ヶ月経っ
て作ったら変わるだろうなっていう
この時の一番私が必死で作ったのはこれですという
ことで だからそれがベストとか
そういうのはあんまり考えてないです
その島に私が島の人だったらなんか突然こんな
ビエンナーレで人がいっぱい来て
嫌なんじゃないかなってちょっと思ったん
ですよ ね でそれは
経済効果はいいかもしれないけど
すごいこうほのぼのと暮らしてたところに
いっぱい人がワラワラ来てバスも通って
そういうことで
孫が帰ってきたり子供が帰ってきたりって事で
いい面ももちろんあるけれども
だからその
瀬戸内芸術祭の時は
3年 3年はとにかく置きますと
でだけど3年経って嫌だっていう

意見の方が多かったら取りますっていうことで
作ったんですよ
しかもその唐櫃岡（からとおか）
っていう集落なんですけど
その人たちと一応何て言うんだろう
私が例えばちょっと自分の家の庭に出て
なんか変な彫刻が見えたら
嫌だろうなと思うんですよ
だから私は精一杯ここにこれが
あったらすごくいいと思うって
いうものを作るけど
でもそれが受け入れられるとは限らなくて
そういうことをやっぱ彫刻家とかの人は
やっぱもっと考えるべきかなっていうのも
あってで
毎年1回 必ず
毎年1回っていうか2、3回行くんですけど
行ってるんですけど
お大師様のお祭りの時に
婦人会って一緒に小豆飯作ってそれをこう
配るみたいなこととか なんかやってそれで
どうですかねみたいなどうですかねって別
聞かないけどなんか
そこに一緒にあるみたいなことを
彫刻もやっていかないとダメかなっていうか
で、こないだ森美術館でトークした時にその
時に小えび隊の人がいて
あのそこで自分がその野枝さんの作品と
撮ってたらおばあちゃんが来てなんか
撮りましょうかって言ってくれて 私たちね
これね全然撮る気にならないのよってもう
普通にあるから風景になってんのよねって
言われてあ彫刻だったんだって思うみたい
なことをおばあちゃんが言ってくれたって
いうんで すごいもう涙出るくらいちょっと
嬉しかったですねそれは そういうふうに

思ってくれるんだったらよかったなー
みたいな だから普通にあるみたいな彫刻
ってというのがいいかなって思うかなっていうか

※テロップで表示される所蔵先は、収録当時のものです。当館所蔵品以外の作品に関しては、現在は所蔵先が異なる場合がございます。